

厚生労働委員会

委員一覧 (25名)

委員長	比嘉 奈津美 (自民)	自見 はなこ (自民)	猪瀬 直樹 (維新)
理事	羽生田 俊 (自民)	友納 理緒 (自民)	梅村 聡 (維新)
理事	星 北斗 (自民)	藤井 一博 (自民)	田村 まみ (民主)
理事	山田 宏 (自民)	三浦 靖 (自民)	芳賀 道也 (民主)
理事	打越 さく良 (立憲)	石橋 通宏 (立憲)	倉林 明子 (共産)
理事	秋野 公造 (公明)	大椿 ゆうこ (立憲)	天島 大輔 (れ新)
	生稲 晃子 (自民)	高木 真理 (立憲)	— 欠員1名 —
	石田 昌宏 (自民)	杉 久武 (公明)	
	神谷 政幸 (自民)	山本 香苗 (公明)	(会期終了日 現在)

(1) 審議概観

第212回国会において、本委員会に付託された法律案は、内閣提出1件であり、可決した。また、本委員会付託の請願15種類121件のうち、2種類2件を採択した。

〔法律案の審査〕

大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律案は、医療及び産業の分野における大麻の適正な利用を図るとともに、その濫用による保健衛生上の危害の発生を防止するため、大麻草から製造された医薬品の施用を可能とするとともに、有害な大麻草由来成分の規制、大麻の施用等の禁止、大麻草の栽培に関する規制に関する規定の整備等の措置を講じようとするものである。委員会においては、大麻草から製造された医薬品の適正な施用の確保策、大麻等の不正な施用に罰則を適用する理由、今後の薬物依存症対策の在り方等について質疑を行うとともに、参考人から意見を聴取した。質疑を終局した後、れいわ新選組から、麻薬及び向精神薬取締法の麻薬の施用罪及びその前提となる禁止規定の対象から大麻等を除くこと等を内容とする修正案が提出された。討論の後、順次採決の結果、修正案は否決され、多数をもって原案どおり可決された。なお、附帯決議が付された。

〔国政調査〕

11月9日、現行の健康保険証が廃止された後も引き続き利用可能とする経過措置期間の必要性、医療機関や薬局における賃上げ対応を踏まえた診療報酬改定を行う必要性、厚労大臣就任後の政治資金パーティー開催が大臣規範に反するとの懸念、新たに抜本的な医師偏在対策を導入する必要性、非正規雇用の拡大が現在の厳しい労働者の状況を招いたとの指摘に対する厚労大臣の認識、新型コロナウイルス感染症診療の手引きにおける誤解を招く記述を見直す必要性、年取の壁・支援強化パッケージに対する相談窓口の充実を図る必要性、新型コロナウイルスワクチンの廃棄数と調達方法に対する厚労大臣の見解、医薬品

の安定供給、流通、在庫に関する事業者及び国の責任について法制化する必要性、医療・介護・障害福祉分野における労働者の賃上げに向けた厚労大臣の決意、介助が必要な高齢又は障害のある糖尿病患者への介助者による薬剤投与を認める必要性等について質疑を行った。

11月16日、看護業務の効率化等に向けた医療DXの推進に関する国の取組状況及び今後の方針、自殺対策におけるゲートキーパー普及促進に向けた周知等に関する取組状況、障害者の個別支援計画の策定に利用者が関与しないことや希望を踏まえないことの問題性、厚労省所管事業における非常勤職員の実態を把握し処遇改善に向けた努力をする必要性、家事使用人を労働基準法の適用対象とする必要性、使用者が不当労働行為に対する労働委員会の救済命令に従わないことに関する厚労大臣の認識、入国前結核スクリーニングの実施に向けた進捗状況、精神保健福祉士を増員し精神病床の患者の地域移行を促進する必要性、現下の医薬品不足に対する危機感に関する厚労大臣の認識、労働者性の判断基準を労働実態に合ったものに見直す必要性、障害者への医療費助成制度に係る国保の国庫負担金減額調整措置の廃止について検討が進まない理由等について質疑を行った。

12月7日、診療報酬改定等に係る財政制度等審議会の建議に対する厚労大臣の受け止め、生活保護の不正受給事案は生活保護基準を引き下げる理由には当たらないことの確認、労働基準監督署が労働者からの相談に際して労働組合の脱退を促すことの不適切性、生活介護におけるサービス提供時間ごとの報酬設定創設に際して利用者及び事業所の事情に配慮する必要性、EPAに基づく外国人介護福祉士候補者の受入れに係る予算を特定技能制度等による介護人材確保に回す必要性、カスタマーハラスメント対策の義務化を含めた法制化の必要性、公務部門における非常勤職員の処遇の構造的な問題を是正する必要性、障害者相談支援事業に係る消費税の納付に関する国から自治体への働きかけの必要性等について質疑を行った。

(2) 委員会経過

○令和5年11月7日(火) (第1回)

- 理事の辞任を許可し、補欠選任を行った。
- 社会保障及び労働問題等に関する調査を行うことを決定した。

○令和5年11月9日(木) (第2回)

- 政府参考人の出席を求めることを決定した。
- 医療分野のデジタル化に関する件、診療報酬に関する件、医薬品の供給体制に関する件、厚生労働大臣の政治資金に関する件、医師偏在対策に関する件、非正規雇用労働者問題に関する件、新型コロナウイルス感染症に係る医療体制に関する件、介護及び障害福祉人材確保対策に関する件、いわゆる年収の壁に関する件、新型コロナウイルス感染症のワクチンに関する件、糖尿病対策に関する件等について武見厚生労働大臣、瀬戸財務大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行った。

[質疑者]

山田宏君(自民)、神谷政幸君(自民)、打越さく良君(立憲)、高木真理君(立憲)、石橋通宏君(立憲)、秋野公造君(公明)、杉久武君(公明)、猪瀬直樹君(維新)、田村まみ君(民主)、倉林明子君(共産)、天畠大輔君(れ新)

○令和5年11月16日(木) (第3回)

- 政府参考人の出席を求めることを決定した。
- 参考人の出席を求めることを決定した。
- 医療分野のデジタル化に関する件、自殺対策に関する件、障害者支援策に関する件、精神保健医療福祉施策に関する件、非正規雇用労働者問題に関する件、労働基準監督行政に関する件、不当労働行為救済制度に関する件、感染症対策に関する件、医薬品の供給体制に関する件、労災保険制度に関する件等について武見厚生労働大臣、工藤内閣府副大臣、穂坂外務大臣政務官、安江文部科学大臣政務官、政府参考人及び参考人独立行政法人国際協力機構理事宮崎桂君に対し質疑を行った。

[質疑者]

友納理緒君(自民)、生稲晃子君(自民)、打越さく良君(立憲)、石橋通宏君(立憲)、大椿ゆうこ君(立憲)、秋野公造君(公明)、猪瀬直樹君(維新)、芳賀道也君(民主)、倉林明子君(共産)、天島大輔君(れ新)

- 大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律案(閣法第7号)(衆議院送付)について武見厚生労働大臣から趣旨説明を聞いた。

○令和5年11月30日(木) (第4回)

- 参考人の出席を求めることを決定した。
- 大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律案(閣法第7号)(衆議院送付)について次の参考人から意見を聞いた後、各参考人に対し質疑を行った。

[参考人]

一般社団法人日本臨床カンナビノイド学会理事長
聖マリアンナ医科大学脳神経外科学教授 太組一朗君
立正大学法学部教授 丸山泰弘君
特定非営利活動法人川崎ダルク支援会理事長 岡崎重人君
日本大麻生産者連絡協議会会長 大森由久君

[質疑者]

藤井一博君(自民)、打越さく良君(立憲)、秋野公造君(公明)、梅村聡君(維新)、芳賀道也君(民主)、倉林明子君(共産)、天島大輔君(れ新)

○令和5年12月5日(火) (第5回)

- 政府参考人の出席を求めることを決定した。
- 大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律案(閣法第7号)(衆議院送付)について武見厚生労働大臣、瀨地厚生労働副大臣及び政府参考人に対し質疑を行い、討論の後、可決した。

[質疑者]

神谷政幸君(自民)、石橋通宏君(立憲)、高木真理君(立憲)、大椿ゆうこ君(立憲)、秋野公造君(公明)、梅村聡君(維新)、芳賀道也君(民主)、田村まみ君(民主)、倉林明子君(共産)、天島大輔君(れ新)

(閣法第7号)

賛成会派 自民、立憲、公明、維新、民主

反対会派 共産、れ新

なお、附帯決議を行った。

○令和5年12月7日(木) (第6回)

- 政府参考人の出席を求めることを決定した。

- 診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬に関する件、生活保護制度に関する件、労働基準監督行政に関する件、介護人材確保対策に関する件、職場におけるハラスメント対策に関する件、非正規雇用労働者問題に関する件、障害者支援策に関する件等について武見厚生労働大臣、宮崎厚生労働副大臣、工藤内閣府副大臣、三浦厚生労働大臣政務官、塩崎厚生労働大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行った。

〔質疑者〕

羽生田俊君（自民）、打越さく良君（立憲）、大椿ゆうこ君（立憲）、山本香苗君（公明）、猪瀬直樹君（維新）、田村まみ君（民主）、倉林明子君（共産）、船後靖彦君（れ新）

○令和5年12月13日（水）（第7回）

- 請願第52号外1件は、採択すべきものにして、内閣に送付するを要するものと審査決定し、第16号外118件を審査した。
- 社会保障及び労働問題等に関する調査の継続調査要求書を提出することを決定した。
- 閉会中における委員派遣については委員長に一任することに決定した。